

日本語教育機関名：神戸日語学院

点検・評価実施日：2026 年 6 月 30 日

実施責任者： 校長 横尾能範

実施担当者（役職）：教務主任 田中いずみ、 事業部長 マハト プラカス シング

評価項目 1： 教育の理念・目標と、その具体化のための方策

理念：

本校は、「相互理解・共生・自立」を教育理念として掲げ、次の人材の育成を目指している。
コミュニケーション力を養い、日本語、日本文化、習慣なども学ぶ。
異なる各国の文化・立場も理解し、相互に尊重できる人を育てる。
自立して社会で生きていくことができる人材を育てる。
それぞれが持つ能力を最大限に発揮できる学習環境を整える。

教育目標：

日本社会で通用する日本語を獲得するために、努力しよう。
日本での留学生活を通して、信頼・勤勉・思いやりの精神を育もう。
日本文化を理解し、自立して生きていける国際人として成長しよう。

具体化のための方策：

- 学生の日本語能力、学習目的及び学習背景を把握し、それらに応じた教育課程及び授業計画を編成する。
- 言語知識の習得だけでなく、日本語を実際に使用する会話、発表、作文、協働活動及び課外活動を取り入れる。
- 学期ごとに到達目標と学習内容を学生に示し、試験、授業内活動、課題等を通して学習成果を確認する。
- 定期的な面談を通して、学生の学習状況、生活状況及び進路希望を把握し、必要な指導・支援を行う。
- 講師会、研修会及び日常的な情報共有を通して教育活動を振り返り、教育課程、授業方法及び評価方法の改善につなげる。
- 学生が日本社会や地域との関わりを持てるよう、文化体験、地域交流、進路行事等の機会を設ける。

評価項目 2： 日本語教育関連の運営：

評価内容	回答
認定日本語教育機関認定基準又は日本語教育機関の告示基準に適合していることを年 1 回以上確認しているか	年 1 回、認定日本語教育機関認定基準および告示基準に照らし合わせて自己点検を実施している。また、日常の運営においても随時基準を参照し、基準に沿った運営を心掛けている。
運営の透明性が確保されているか	職務内容や責任分担は教職員に周知されている。一部文書化されていない部分については、現在整備を進めている。予算編成は総務・会計部および役員が行い、決定した予算に基づき適正に執行している。
運営に必要な情報が機関内の関係者間で共有されているか	校長をはじめ全教職員が、メール・LINE WORKS 等を活用し、日常的に情報共有を行っている。また、月例ミーティングでの周知や学内サーバーによる情報の一元管理により、必要な情報が適切に共有されている。
運営にあたり法令を遵守しているか	コンプライアンス向上のため、本年度はパワーハラスメント防止研修を実施し、教職員が働きやすい環境整備に努めている。また、学生の在留管理に関する入管への届出・報告は、法令に基づき期日を遵守して行っている。

評価項目 3： 情報公開

評価内容	回答
機関の設置者、教育内容定員、進路等の情報をホームページ等で公開しているか	- 本校の設置者情報、教育内容、進路状況、学費等の必要情報は、公式ホームページにて常時公開している。 - 公開内容は、告示基準に基づき、受験者・在校生・関係者が容易に確認できるよう整理して掲載している。
募集及び納付金に関する情報を公開している	授業内容、授業時間、学費、返金規定など、入学希望者が必要とする情報はすべてホームページで確認できるよう公開している。納付金の内訳や返金規定は、透明性確保のため詳細に記載している。
入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っているか	ホームページでは日本語と英語の 2 言語で情報を公開しており、海外の入学希望者にも理解しやすいよう配慮している。必要に応じて、募集代理人へ多言語で補足説明を行っている。
情報は十分に整理されて公開されており、必要な情報がどこにあるかがわかりやすく示されているか	- ホームページの構成は、入学案内・学費・教育内容・学校概要など、目的別に整理されており、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるよう設計している。 - さらに、情報の利便性向上のため、現在も継続的に改善を進めている。

公開されている情報は常に最新のものに更新されているか	ホームページの更新担当者を明確に選任し、学費・募集要項・教育内容などの変更が生じた際には速やかに更新している。年度ごとの変更点は、更新履歴を管理しながら適切に反映している
----------------------------	---

評価項目4：入学者の募集と選考

評価内容	回答
適切な方法で入学者の募集を行っているか	本校では、経営計画および教育目標に基づき、毎年度の募集計画を策定している。海外募集代理人には、必要に応じてオンライン説明会を実施し、募集方針・必要書類・選考基準を詳細に説明している。募集代理人とは定期的に連絡を取り、募集活動の適正性を確認し、必要に応じて指導・改善を行っている。
適切な方法で入学者の選考が行われているか	入学志願者には、願書、留学理由書、経費支弁書を提出してもらい、学生のニーズや情報を確認している。最終学歴の成績や、日本語能力テストの結果を確認し、オンラインでの面接を行い日本語能力や学習意欲を確認し、可否を決定している。経費支弁能力や経歴等も提出された根拠資料に不自然な点がないか確認している。入学者選考のプロセスも募集要項に明確に記載しており、ホームページで確認できる。

評価項目5：教育活動

評価内容	回答
教育目標に合致した教育活動の計画を作成しているか	- 学生の日本語能力、学習目的及び学習背景を踏まえ、各クラスの到達目標と授業計画を設定している。 - 各学期の開始時に、クラスの目標、使用教材、授業内容及び評価方法を教員間で確認し、学生にも説明している。 - 言語知識の習得に加え、会話、発表、作文、協働活動等を取り入れ、実際の場面で日本語を運用する力を育成している。 - 教材をそのまま進めるだけでなく、学生の習熟度や学習状況に応じて、補助教材や練習活動を取り入れている。 - 定期試験、授業内課題、発表等により学習成果を確認し、その結果を次の授業計画や指導に反映している。

教育活動を適切に実施するための手立てを講じているか	・年2回の講師会及び必要に応じた研修会を実施し、教育方針、授業計画、評価方法及び学生指導上の留意事項を共有している。 ・学期ごとに各クラスの到達目標と授業計画を学生に提示し、学習の見通しを持てるようにしている。 ・出席状況、授業内容、学生の理解度及び対応上の留意事項を記録し、教員間で日常的に共有している。 ・定期試験だけでなく、授業への取組、課題、発表等を含めて学習状況を把握している。 ・成績評価の基準を教員間で共有するとともに、学生にもあらかじめ説明し、学期ごとに成績結果を通知している。 ・学習上の課題がある学生については、面談、補習、個別指導等を行い、その後の状況を確認している。
③ 授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っているか	・学期ごとの講師会及び教務会議において、各クラスの到達状況、試験結果、授業の進度、出席状況及び学生の学習状況を確認している。 ・定期試験、授業内課題、発表、資格外活動等に関する学生からの意見を把握し、必要に応じて指導方法や運用を見直している。 ・教員間で授業実践上の課題や改善事例を共有し、教材、授業方法及び評価方法の改善につなげている。 ・教育活動の点検結果と改善事項を記録し、次学期の授業計画や講師会・研修会の内容に反映している。 ・今後は、教育目標及び学習目標の達成状況をより客観的に検証できるよう、学生アンケート、学習成果、進路結果等を組み合わせた検証方法を整備する。

評価項目6：教職員育成

評価内容	回答
① 教育力及び支援力強化のための取組を適切に行っているか	♦ 採用時研修にて、学校運営方針・事務業務の基本手順・学生支援の理念を明確に伝え、事務職員として必要な事務能力を確認している。(事務職員) ♦ 採用時研修において、本校の教育理念、教育方針、教育

	課程、授業運営、評価方法及び学生支援上の留意事項を説明している。（教員） - 年間の事務運営計画に基づき、学生対応・入管手続き・会計処理・情報管理などの事務業務を統一し、事務品質の安定を図っている。 - 入管届出研修など、事務職員向けの校内研修を定期的実施し、事務能力の向上を図っている。 - 事務所内で業務マニュアルを整備し、業務の標準化と新人育成を行っている。 - 学生対応の質向上のため、事務職員同士でケース共有を行い、対応力の向上に努めている。 - 新任教員に対しては、授業見学、教案確認、授業後の振り返り等を行い、本校の教育方針に沿った授業を実施できるよう支援している。 - 年2回の講師会及び校内研修会を実施し、教育課程、授業方法、評価方法及び学生対応について理解を深めている。 - 教員との個別面談を実施し、授業上の課題や希望を把握するとともに、改善に向けた助言を行っている。 - 外部研修の情報を教職員に共有し、参加を促している。参加者から得られた知見は、講師会等を通して校内で共有している。
② 教職員の自己評価等を含む多方向的な教職員評価を行っているか	- 上司との個人面談を定期的実施し、業務の振り返り・改善点・課題を確認し、自己評価を促している。 - 面談では、学生対応・入管手続き・会計処理などの業務成果を具体的にフィードバックし、事務職員の能力向上につなげている。 - 現時点では正式な評価システムは導入していないが、評価システムの導入を検討中であり、今後はより客観的な評価体制を整備する予定である。 - 今後は、事務職員の成長をより客観的に把握できるよう、自己評価・上司評価・教務からのフィードバックを組み合わせた 多方向評価体制の導入を計画している。 - 主任教員との個別面談において、教員が自身の授業実践を振り返り、成果と課題を確認する機会を設けている。 - 授業の進度、学生の理解度、試験結果及び学生対応の状況を踏まえ、必要に応じて主任教員から助言を行っている。 - 教員間の授業見学、自己評価票、学生アンケート等を含む体系的な教職員評価制度は、現時点では十分に整備さ

	れていない。 ◆ 今後は、評価の目的を教職員の教育力・支援力の向上と明確に位置づけ、自己評価、主任教員との面談、授業観察等を組み合わせた評価方法を検討する。
--	---

評価項目 7：学生支援

評価内容	回答
① 日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組を適切に行っているか	◆ 入学時および長期休暇前に、生活上のルール、交通安全、防犯、防災、地域で生活マナー等についてガイダンスを実施している。 ◆ 警察等の関係機関と連携し、交通安全、防犯及び生活上の注意事項に関する講習を実施している。 ◆ 学校内で季節行事や文化体験イベントを実施し、日本文化に触れる機会を提供している。 ◆ 生活指導担当者を定め、学生が生活上の問題について相談できる体制を整えている。 ◆ 指導内容や相談内容は必要な範囲で教職員間に共有し、継続的な支援につなげている。 ◆ 地域の学校や学生との交流活動を行い、日本社会の一員としての意識を育成している。
② 進路指導を適切に行っているか	◆ 進路指導担当教員および職員を配置し、学生の希望、適性、日本語能力及び学習状況に応じた進路指導を行っている。 ◆ 定期的な個別面談を通して進路希望を把握し、志望校の選定、出願書類作成、面接及び試験対策を支援している。 ◆ 早期から進路意識を持たせるため、進学説明会、校内説明会及び外部進学フェア等の情報を提供している。進路資料を校内に備え、学生が必要に応じて閲覧できるようにしている。 ◆ 最終的な進路決定先を記録し、卒業生の進学後の状況についても可能な範囲で把握している。 ◆ 進路指導の実施状況と進路結果を振り返り、翌年度の指導計画に反映している。
③ 安全な留學生活を送るための適切な取組をしているか	◆ 全学生に定期健康診断を実施し、健康上の問題が確認された場合は、本人への助言や医療機関の案内を行っている。 ◆ 授業中や面談時に学生の心身の状態を把握し、必要に応じて個別相談や関係機関への案内を行っている。 ◆ 感染症が流行する時期には、学校から随時注意喚起を行

	い、予防行動を周知している。また感染症等の発生時には、学生及び教職員に注意事項を周知し、感染拡大防止に努めている。 - 火災、地震等を想定した避難訓練を実施し、災害時の行動を学生に指導している。 - 事故、災害、疾病等が発生した場合に備え、緊急連絡体制及び対応手順を教職員間で共有している。
④ 入国・在留に関する指導及び支援を適切に行っているか	- 入学時及び在学中に、在留資格・在留期間、資格外活動、届出義務等について説明している。 - 出席率・資格外活動時間については定期的に確認し、問題が認められる場合は、個別面談と指導を行っている。 - 在留資格更新や資格外活動許可申請など、必要書類の確認及び手続き上の支援を行っている。 - 指導内容、面談内容及び対応経過を記録し、関係する教職員間で共有している。 - 必要に応じて、出入国在留管理機関その他の関係機関からの情報を確認し、学生への周知内容を更新している。

評価項目 8：施設・設備

評価内容	回答
① 語学学習に適した施設・設備であるか	- 教室は採光・照明・換気・空調などの衛生環境に配慮しており、学習に適した環境を整備している。 - 全教室に プロジェクター・スクリーン・Wi-Fi を設置し、ICT を活用した授業が可能な環境を整えている。 - Windows パソコンを1クラス分（20台）備え、オンライン学習・ICT 教育・日本語運用力向上に対応できる設備を整備している。 - 教室の机・椅子・ホワイトボードなどの基本設備も適切に配置され、語学学習に必要な環境が確保されている。
② 学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対応を行っているか	- 法令上必要な設備（消火器、誘導灯、非常ベルなど）はすべて整備し、消防法に基づく 年次点検 を毎年受けている。 - 校舎はバリアフリーではない部分があるが、緊急時の避難経路を明確にし、避難訓練を定期的実施して安全確保に努めている。 - 地震・台風などの天災に備え、自治体から発信される防災情報や安全行動について又注意喚起を学生へ繰り返し周知する体制を整備している。 - 校内の安全管理については、教職員間で情報共有し、危険箇所の確認や改善を随時行っている。

評価項目 9：地域貢献・社会貢献

評価内容	回答
① 地域貢献、社会貢献となる活動を行っているか	◆ 地域・社会貢献を積極的に行っている。 ◆ 学習発表会を地域の中学校と共催で行い、学生同士の交流を行う。 ◆ 地域高等学校主催の英語祭にゲストとして参加し、交流を行う。 ◆ 地域高等学校から人権講演会の依頼があり、当校学生が講演を行う。 ◆ 地域の警察と連携し、学生に防犯・安全講習会を実施してもらう。

評価項目 10： 財務

評価内容	回答
① 日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況であるか	◆ 本校の財務状況は安定しており、日本語教育を継続的に実施できる体制が整っている。 ◆ 年度ごとに 予算および収支計画を策定し、計画に基づいて適切に執行している。 ◆ 収支状況は定期的に確認し、必要に応じて予算の見直しを行うことで、健全な財務運営を維持している。 ◆ 外部の 税理士事務所と顧問契約を締結し、財務内容・会計処理・法令遵守について専門家によるチェックを受けている。 ◆ 外部専門家の助言を取り入れることで、財務の透明性と適正性を確保し、安定した学校運営につなげている。